

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

1-25-02

10/0032
JC927 U.S.
12/06/0

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office

出願年月日

Date of Application: 2001年 3月26日

出願番号

Application Number: 特願2001-087278

出願人

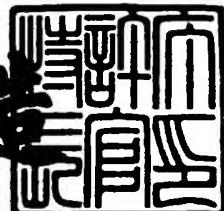
Applicant(s): 株式会社日立国際電気

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年 7月 4日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3062920

【書類名】 特許願
【整理番号】 2000552FT
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 H04J 11/00
H04B 7/08

【発明者】

【住所又は居所】 東京都中野区東中野三丁目14番20号 株式会社日立
国際電気内

【氏名】 畑 善之

【特許出願人】

【識別番号】 000001122

【氏名又は名称】 株式会社日立国際電気

【代理人】

【識別番号】 100093104

【弁理士】

【氏名又は名称】 船津 暢宏

【電話番号】 03-3571-1109

【選任した代理人】

【識別番号】 100092772

【弁理士】

【氏名又は名称】 阪本 清孝

【電話番号】 03-3571-1109

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 041715

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

特2001-087278

【包括委任状番号】 0015261

【包括委任状番号】 0015260

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 帯域分割復調方法及びO F DM受信機

【特許請求の範囲】

【請求項1】 受信したR F信号の伝送帯域を複数に帯域分割し、前記帯域分割された信号毎にO F DM復調し、前記復調結果を合成する帯域分割復調方法において、

受信したR F信号を前記帯域分割数に同相分配し、前記受信したR F信号の全帯域幅を前記帯域分割数で割った帯域幅を単位帯域幅とし、前記単位帯域幅の整数倍だけ段階的にずらすように前記分配された各信号に対して周波数変換し、前記周波数変換された各信号を同一特性のフィルタリングで帯域通過させて帯域分割を行い、前記帯域通過された信号をO F DM復調することを特徴とする帯域分割復調方法。

【請求項2】 受信したR F信号の伝送帯域を複数に帯域分割し、前記帯域分割された信号毎にO F DM復調し、前記復調結果を合成するO F DM受信機において、

R F信号を受信し、前記帯域分割数に同相分配する分配部と、

前記受信したR F信号の全帯域幅を前記帯域分割数で割った帯域幅を単位帯域幅とし、前記単位帯域幅の整数倍だけ段階的にずらすように前記分配された各信号に対して周波数変換を行う周波数変換部と、

前記周波数変換された各信号を同一特性で帯域通過させるバンドパスフィルタ部と、

前記帯域通過された信号をO F DM復調するO F DM復調部と、

前記O F DM復調部からの出力を合成して復調データを出力する合成部とを有することを特徴とするO F DM受信機。

【請求項3】 前記バンドパスフィルタ部が、前記周波数変換された各信号が共通に有している周波数帯域を通過させる同一特性のバンドパスフィルタ部であることを特徴とする請求項2記載のO F DM受信機。

【請求項4】 受信したR F信号の伝送帯域を複数に帯域分割し、前記帯域分割された信号毎にO F DM復調し、前記復調結果を合成するO F DM受信機に

において、

R F 信号を受信し、第 1 の I F 周波数帯に変換する第 1 の周波数変換部と、
前記第 1 の周波数変換部からの出力信号をある一定の出力レベルに調整し出力
する A G C 部と、

前記 A G C 部からの出力を前記帯域分割数に同相分配する同相分配器と、
前記同相分配器からの各出力に対して、前記受信した R F 信号の全帯域幅を前
記帯域分割数で割った帯域幅を単位帯域幅とし、前記単位帯域幅の整数倍だけ段
階的にずらすように周波数変換を行う第 2 の周波数変換部と、

前記周波数変換された各信号を同一特性で帯域通過させるバンドパスフィルタ
部と、

前記各帯域通過信号を第 2 の I F 周波数帯に周波数変換する第 3 の周波数変換
部と、

前記各第 3 の周波数変換部からの出力を O F D M 復調する O F D M 復調部と、

前記各 O F D M 復調部からの出力を並列一直列変換して合成する P / S 部とを
有することを特徴とする O F D M 受信機。

【請求項 5】 受信した R F 信号の伝送帯域を複数に帯域分割し、前記帯域
分割された信号毎に O F D M 復調し、前記復調結果を合成する O F D M 受信機に
において、

R F 信号を受信し、ある一定の出力レベルに調整し出力する A G C 部と、
前記 A G C 部からの出力を前記帯域分割数に同相分配する同相分配器と、
前記同相分配器からの各出力に対して、第 1 の I F 周波数帯に周波数変換し、
前記受信した R F 信号の全帯域幅を前記帯域分割数で割った帯域幅を単位帯域幅
とし、前記単位帯域幅の整数倍だけ段階的にずらすように周波数変換を行う第 4
の周波数変換部と、

前記周波数変換された各信号を同一特性で帯域通過させるバンドパスフィルタ
部と、

前記各帯域通過信号を第 2 の I F 周波数帯に周波数変換する第 5 の周波数変換
部と、

前記各第 5 の周波数変換部からの出力を O F D M 復調する O F D M 復調部と、

前記各O F D M復調部からの出力を並列一直列変換して合成するP／S部とを有することを特徴とするO F D M受信機。

【請求項6】 受信したR F信号の伝送帯域を複数に帯域分割し、前記帯域分割された信号毎にO F D M復調し、前記復調結果を合成するO F D M受信機において、

R F信号を受信し、ある一定の出力レベルに調整し出力するA G C部と、前記A G C部からの出力を前記帯域分割数に同相分配する同相分配器と、前記同相分配器からの各出力に対して、第1のI F周波数帯に周波数変換し、前記受信したR F信号の全帯域幅を前記帯域分割数で割った帯域幅を単位帯域幅とし、前記単位帯域幅の整数倍だけ段階的にずらすように周波数変換を行う第4の周波数変換部と、

前記周波数変換された各信号を同一特性で帯域通過させるバンドパスフィルタ部と、

前記バンドパスフィルタ部からの出力を入力し、前記入力信号の周波数に合わせて通常のサンプリング周波数より低い周波数でアンダーサンプリングしてデジタル信号に変換してO F D M復調するO F D M復調部と、

前記各O F D M復調部からの出力を並列一直列変換して合成するP／S部とを有することを特徴とするO F D M受信機。

【請求項7】 送信信号をO F D M変調して送信する送信機と、前記無線送信信号を受信し、O F D M復調する受信機を有するマルチキャリア伝送システムであって、

前記受信機が、請求項2乃至請求項6記載のO F D M受信機であることを特徴とするマルチキャリア伝送システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、高速無線L A N等に用いられるマルチキャリアC DMA伝送システムのO F D M(Orthogonal Frequency Division Multiple:直交周波数多重変調)通信方式における受信機に係り、特にB P Fの種類を減らし、B P Fの開発費

を軽減して、経済的に構成できるO F DM受信機に関する。

【0002】

【従来の技術】

欧洲の地上波のデジタル放送に使用されているO F DM (Orthogonal Frequency Division Multiple:直交周波数多重変調) 方式とは、Q A M (Quadrature Amplitude Modulation:直交振幅変調) 又はQ P S K (Quadrature Phase Shift Keying:直交位相変調) された数千もの搬送波を束にして使う変復調方式である。

【0003】

まず、O F DM受信機の一般的な理論的構成例について、図6を使って説明する。図6は、一般的なO F DM受信機の理論的構成例を示すブロック図である。

一般的なO F DM受信機は、図6に示すように、高周波の無線 (Radio Frequency: R F) 信号を受信するアンテナ100と、第1のローカル周波数信号を発振する局部発振器(1)101と、R F信号に第1のローカル周波数信号を乗算して後続の構成の仕様に合わせた中間周波である第1の中間 (Intermediate Frequency: I F) 周波数帯 f_1 に変換する周波数変換部102と、出力が常に所望の一定電力レベルになるように入力信号を増幅或いは減衰するA G C部103と、第2のローカル周波数信号を発振する局部発振器(2)104と、A G C部103の出力信号に第2のローカル周波数信号を乗算して後続の構成の仕様に合わせて周波数を下げた中間周波である第2のI F周波数帯 f_2 に変換する周波数変換部105と、第2のI F周波数帯信号をO F DM復調するO F DM復調部106と、O F DM復調部106から出力される並列信号を直列信号に変換し復調データとして出力するP/S変換器107とから構成されている。

【0004】

そして、一般的なO F DM受信機の動作としては、高周波のR F信号がアンテナ100より入力され、周波数変換部102で局部発振器(1)101からのローカル周波数信号と乗算されて中間周波である第1のI F周波数帯 f_1 に変換され、A G C部103で一定電力レベルになるよう増幅或いは減衰され、周波数変換部105で局部発振器(2)104からのローカル周波数信号と乗算されて周波数を下げた第2のI F周波数帯 f_2 に変換されO F DM復調部106に出力され

る。

【0005】

そして、O F DM復調部106では、一般的な論理的動作として、ある程度高速な周期でサンプリングされて入力信号がデジタル信号に変換され、直交検波されて同相成分と直交成分(I, Q)のベースバンド信号が生成され、I, Q各信号に対して直列-並列変換が為され、各並列信号が離散フーリエ変換されてから、各タイミングのI, Q各信号を使って復号が行われ、復号データが並列に出力される。

そして、O F DM復調部106から出力される並列の復号データがP/S変換器107で並列-直列変換されて、復調データとして出力されるようになっている。

【0006】

しかし、図6のように理論的に構成したO F DM受信機では、伝送するデータ速度が高速な場合に、O F DM復調部106内部で直交検波によりI, Q各成分のベースバンド信号を生成する構成や、I, Q各成分を離散フーリエ変換する構成におけるハードウェアの処理速度が、現在の技術では不足しているために、図6の構成のままでは実現困難な場合がある。

【0007】

そこで、この様な処理速度の問題を解決する一般的な解決策として、並列処理を用いる場合がある。並列処理とは、一般的には、高速動作が要求される部分を時分割し、それぞれにハードウェアを割り当て、ハードウェア構成を増やす事により時間軸に対して並列に処理を行う方法として知られている。

そこで、O F DM受信機では、この並列処理の概念を時分割ではなく、周波数帯域の帯域分割に用い、扱う周波数帯域全体を複数の周波数帯域に分割し、それぞれの周波数帯域にハードウェアを割り当て、ハードウェア構成を増やす事により周波数軸に対して並列に処理を行うことによって、高速動作が要求される部分を現在存在するハードウェアの処理速度で実現できるようにしている。

【0008】

次に、図6に示した論理構成を実現する従来のO F DM受信機の構成例について

て、図7を使って説明する。図7は、従来のO F DM受信機の実現レベルでの構成例を示すブロック図である。尚、図7では、4つの並列処理に帯域分割した場合の構成例を示している。

従来のO F DM受信機の実現レベルの構成は、図7に示すように、論理構成で説明した構成であるアンテナ100と局部発振器(1)101と周波数変換部102とA G C部103と、上記説明した並列処理を実現するための、同相分配部201と、4分割して周波数帯域を取り出すためのB P F(1)202、B P F(2)203、B P F(3)204、B P F(4)205と、各系列に対応して、ローカル周波数信号を発振する局部発振器(3)206、局部発振器(4)207、局部発振器(5)208、局部発振器(6)209と、各系列において帯域制限した信号に各系列におけるローカル周波数信号を乗算して第2のI F周波数帯 f_2 に変換する周波数変換部105と、各系列毎に第2のI F周波数帯信号をO F DM復調するO F D M復調部106と、O F DM復調部106から出力される並列信号を直列信号に変換し復調データとして出力するP/S部210とから構成されている。

【0009】

尚、B P F(1)202、B P F(2)203、B P F(3)204、B P F(4)205は、それぞれ異なる中心周波数で、帯域幅として、O F DM受信機で扱う帯域幅全体（ここでは仮に、BWとする）の1/4の帯域幅を持つ帯域通過フィルタである。

例えば、B P F(1)202の中心周波数を f_a 、B P F(2)203の中心周波数を f_b 、B P F(3)204の中心周波数を f_c 、B P F(4)205の中心周波数を f_d とし、各フィルタの帯域幅をBW/4とする。

【0010】

また、周波数変換部105による変換後の第2の中間周波数を f_2 とすると、局部発振器(3)206、局部発振器(4)207、局部発振器(5)208、局部発振器(6)209における各発振周波数は、各系列のB P Fの中心周波数に対応し、各々 $f_a - f_2$ 、 $f_b - f_2$ 、 $f_c - f_2$ 、 $f_d - f_2$ である。

【0011】

次に、従来のO F DM受信機の動作について、図7、図8を使って説明する。

図8は、従来のO F D M受信機における各部からの出力信号の周波数スペクトルを示す説明図である。

従来のO F D M受信機の動作は、高周波のR F信号がアンテナ100より入力され、周波数変換部102で局部発振器(1)101からのローカル周波数信号と乗算されて中間周波である第1のI F周波数帯 f_1 に変換され、A G C部103で一定電力レベルになるように増幅或いは減衰され、同相分配器201で4つに同相分配して信号a1～a4が各系列に出力される。

この時、同相分配部201から出力される信号aの周波数スペクトルを図8(a)に示す。

【0012】

そして、第1の系列では、分配器出力信号a1が、B P F(1)202で、第1の周波数 f_a を中心周波数とし、帯域幅 $BW/4$ で帯域制限が施され、図8(b)に示すような周波数特性の信号bが出力される。

また、第2の系列では、分配器出力信号a2が、B P F(2)203で、第2の周波数 f_b を中心周波数とし、帯域幅 $BW/4$ で帯域制限が施され、図8(c)に示すような周波数特性の信号cが出力される。

同様に、第3、4の系列では、分配器出力信号a3,a4が、B P F(3)204又はB P F(4)205で、第3の周波数 f_c 又は第4の周波数 f_d を中心周波数とし、帯域幅 $BW/4$ で帯域制限が施され、図8(d), (e)に示すような周波数特性の信号d, eが出力される。

【0013】

そして、各系列では、各B P Fからの出力信号が、各周波数変換部105で各自対応する局部発振器(3)206又は局部発振器(4)207又は局部発振器(5)208又は局部発振器(6)209からのローカル周波数信号と乗算されて周波数を下げた第2のI F周波数帯 f_2 に変換され、各O F D M復調部106に出力される。

【0014】

そして、各O F D M復調部106では、一般的な論理的動作として、ある程度高速な周期でサンプリングされて入力信号がデジタル信号に変換され、直交検波

されて同相成分と直交成分（I, Q）のベースバンド信号が生成され、I, Q各信号に対して直列一並列変換が為され、各並列信号が離散フーリエ変換されてから、各タイミングのI, Q各信号を使って復号が行われ、復号データが並列に出力され、各O F D M復調部106から出力される並列の復号データがP/S変換器210で並列一直列変換されて、復調データとして出力されるようになっている。

【0015】

図7に示した並列構成のO F D M受信機では、復調部分を4つの回路に分割した事により、ハードウェア構成が4倍に増加してしまうが、各部の動作速度をそれぞれ1/4に低速化する事ができ、O F D M受信機を現在存在するハードウェアの処理速度で実現できるようになる。

【0016】

尚、O F D M受信機に関する従来技術としては、平成12年2月18日公開の特開2000-49744「伝送帯域分割変復調装置及びその方法」（出願人：日本ビクター株式会社、発明者：高岡勝美）がある。

この従来技術は、マルチキャリア伝送システムに関し、送信側では、伝送帯域を帯域分割し、該帯域分割数に対応して情報を変調し、該変調した信号を分割した帯域に応じて異なる周波数で周波数変換し、合成して送信し、受信側では、受信信号の伝送帯域を帯域分割し、該分割帯域に対応して通過させた信号を、分割された帯域に応じて異なる周波数で周波数変換し、各周波数変換された信号を復調し、復調された分割数相当の信号をシリアル変換する伝送帯域分割変復調装置及びその方法であり、これにより、システムの構築を比較的容易にできるものである。

【0017】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記従来のO F D M受信機では、帯域分割並列処理のために受信信号を周波数軸上でそれぞれの帯域に抽出する必要があり、各々中心周波数が異なるB P Fを帯域分割数だけ具備する必要がある。B P Fはスプリアスの除去や符号間干渉を避けるために不可欠であり、この種のB P Fには一般的にS A W

フィルタが使われるが、中心周波数が各々異なる SAW フィルタを帯域分割数分だけ開発しなければならず、不経済であるという問題点があった。

【0018】

本発明は上記実情に鑑みて為されたもので、帯域分割による並列処理を行う O FDM 受信機における帯域通過フィルタの特性を同一にすることで、帯域通過フィルタの開発費を軽減して経済的に構成できる帯域分割復調方法及び O FDM 受信機を提供することを目的とする。

【0019】

【課題を解決するための手段】

上記従来例の問題点を解決するための本発明は、受信した RF 信号の伝送帯域を複数に帯域分割し、帯域分割された信号毎に O FDM 復調し、復調結果を合成する帯域分割復調方法において、

受信した RF 信号を帯域分割数に同相分配し、受信した RF 信号の全帯域幅を帯域分割数で割った帯域幅を単位帯域幅とし、単位帯域幅の整数倍だけ段階的にずらすように分配された各信号に対して周波数変換し、周波数変換された各信号を同一特性のフィルタリングで帯域通過させて帯域分割を行い、帯域通過された信号を O FDM 復調するものなので、帯域分割による並列処理のための帯域通過フィルタの特性を同一にすることで、帯域通過フィルタの開発費を軽減して経済的な構成で実現できる。

【0020】

上記従来例の問題点を解決するための本発明は、受信した RF 信号の伝送帯域を複数に帯域分割し、帯域分割された信号毎に O FDM 復調し、復調結果を合成する O FDM 受信機において、

RF 信号を受信し、帯域分割数に同相分配する分配部と、受信した RF 信号の全帯域幅を帯域分割数で割った帯域幅を単位帯域幅とし、単位帯域幅の整数倍だけ段階的にずらすように分配された各信号に対して周波数変換を行う周波数変換部と、周波数変換された各信号を同一特性で帯域通過させるバンドパスフィルタ部と、帯域通過された信号を O FDM 復調する O FDM 復調部と、O FDM 復調部からの出力を合成して復調データを出力する合成部とを有するものなので、帯

域分割による並列処理を実現するための帯域通過フィルタの特性を同一にすることで、帯域通過フィルタの開発費を軽減して経済的な構成を実現できる。

【0021】

【発明の実施の形態】

本発明の実施の形態について図面を参照しながら説明する。

尚、以下で説明する機能実現手段は、当該機能を実現できる手段であれば、どのような回路又は装置であっても構わず、また機能の一部又は全部をソフトウェアで実現することも可能である。更に、機能実現手段を複数の回路によって実現してもよく、複数の機能実現手段を単一の回路で実現してもよい。

【0022】

本発明に係る帯域分割復調方法は、受信したRF信号を帯域分割数に同相分配し、受信したRF信号の全帯域幅を帯域分割数で割った帯域幅を単位帯域幅とし、単位帯域幅の整数倍だけ段階的にずらすように分配された各信号に対して周波数変換し、周波数変換された各信号を同一特性のフィルタリングで帯域通過させて帯域分割を行い、帯域通過された信号をOFDM復調するものなので、帯域分割による並列処理を実現するための帯域通過フィルタの特性を同一にすることで、帯域通過フィルタの開発費を軽減して経済的な構成を実現できるものである。

【0023】

また、本発明に係るOFDM受信機は、RF信号を受信し、帯域分割数に同相分配する分配部と、受信したRF信号の全帯域幅を帯域分割数で割った帯域幅を単位帯域幅とし、単位帯域幅の整数倍だけ段階的にずらすように分配された各信号に対して周波数変換を行う周波数変換部と、周波数変換された各信号を同一特性で帯域通過させるバンドパスフィルタ部と、帯域通過された信号をOFDM復調するOFDM復調部と、OFDM復調部からの出力を合成して復調データを出力する合成部とを有するものなので、帯域分割による並列処理を実現するための帯域通過フィルタの特性を同一にすることで、帯域通過フィルタの開発費を軽減して経済的な構成を実現できるものである。

【0024】

尚、本発明の実施の形態における各手段部分と図1の各部との対応を示すと、

分配部はアンテナ100、局部発振器(1)101、周波数変換部102、AGC部103に相当し、周波数変換部は局部発振器(7)401、局部発振器(8)402、局部発振器(9)403及び周波数変換部404に相当し、バンドパスフィルタ部はBPF(1)202-1～202-4に相当しており、OFDM復調部は、周波数変換部105及び局部発振器(3)206及びOFDM復調部106に相当し、合成部は、P/S部210に相当している。

【0025】

まず、本発明の実施の形態に係るOFDM受信機の第1の構成例について図1を使って説明する。図1は、本発明に係るOFDM受信機の第1の構成例を示す構成ブロック図である。尚、図1では、4つの並列処理に帯域分割した場合の構成例を示している。また、図7と同様の構成をとる部分については同一の符号を付して説明する。

本実施の形態に係るOFDM受信機の第1の構成例（以降、第1のOFDM受信機と呼ぶ）は、従来のOFDM受信機と同様の構成である、アンテナ100と、局部発振器(1)101と、周波数変換部102と、AGC部103と、同相分配器（図では、H）201と、局部発振器(3)206と、各系列における周波数変換部105と、OFDM復調部106と、P/S部（図では、P/S）210とに加えて、本発明の特徴部分である局部発振器(7)401、局部発振器(8)402、局部発振器(9)403と、各系列における周波数変換部404-1～404-3と、BPF(1)202-1～202-4とから構成されている。

【0026】

本発明の第1のOFDM受信機における各部について説明する。

アンテナ100は、無線（Radio Frequency：RF）信号を受信するアンテナである。

局部発振器(1)101は、第1のローカル周波数信号を発振する局部発振器である。

周波数変換部102は、高周波のRF信号に第1のローカル周波数信号を乗算して第1の中間（Intermediate Frequency：IF）周波数帯に変換する周波数変換部である。ここで、第1のIF周波数帯は、後続のAGC部103及びBPF

(1) 202等における仕様で、実現が可能又は簡単である中間周波数帯である。

AGC部103は、出力が常に所望の一定電力レベルになるように入力信号を増幅或いは減衰する自動利得制御 (Automatic Gain Control : AGC) 増幅器である。

同相分配器201は、入力信号を同相で帯域分割数である4系列に分配出力する分配器である。

【0027】

BPF(1)202は、従来と同様に、第1の周波数 f_a を中心周波数とし、装置全体で扱う帯域幅をBWとした場合に、帯域幅 $BW/4$ で帯域制限を施す帯域通過フィルタである。この $BW/4$ が請求項で示した単位帯域幅である。尚、各系列に配置されたBPF(1)202-1～202-4は、全て上記特性を有する帯域通過フィルタである。

局部発振器(3)206は、従来と同様に、周波数変換部105による変換後の第2の中間周波数を f_2 とすると、局部発振器(3)206における発振周波数は、BPF(1)202の中心周波数に対応し、 $f_a - f_2$ である。

周波数変換部105は、従来と同様に、入力信号に局部発振器(3)206からのローカル周波数信号を乗算して第2のIF周波数帯 f_2 に変換する周波数変換部である。

【0028】

OFDM復調部106は、従来と同様に、各系列毎に第2のIF周波数帯信号をOFDM復調するOFDM復調部である。

ここで、OFDM復調部106の内部構成例について、図2を使って簡単に説明する。図2は、本発明のOFDM受信機のOFDM復調部106の内部構成例を示すブロック図である。

本発明のOFDM受信機のOFDM復調部106の内部は、入力信号をデジタル信号に変換するA/D変換器301と、デジタル信号をI, Qのベースバンド信号に直交検波し、それぞれ出力するデジタル直交復調器302と、I, Q各自的ベースバンド信号を直列-並列変換するS/P部303とS/P部304と、並列出力される各I, Qの信号を離散フーリエ変換するDFT部305とDFT

部306と、各タイミングにおけるI, Q信号を復号して復号データを出力する復号回路307とから構成されている。

【0029】

本発明のOFDM受信機のOFDM復調部106の動作は、入力信号がA/D変換器301でデジタル信号に変換され、デジタル直交復調器302でI, Qのベースバンド信号に直交検波され、それぞれの信号がS/P部303又はS/P部304で直列一並列変換され、DFT部305又はDFT部306で離散フーリエ変換され、各復号回路307でそれぞれ入力されたI, Q信号を復号して復号データを出力するようになっている。

【0030】

P/S部210は、各系列のOFDM復調部106から並列に出力される復号データを直列データに変換し、復調データとして出力する並列一直列変換部である。

【0031】

以降、本発明の特徴部分として設けられた部分について説明する。

局部発振器(7)401は、同相分配器201からの出力信号aを単位帯域幅BW/4の1倍であるBW/4だけずらす為のローカル信号を出力する発振器である。

局部発振器(8)402は、同相分配部201からの出力信号aを単位帯域幅BW/4の2倍であるBW/2だけずらす為のローカル信号を出力する発振器である。

局部発振器(9)403は、同相分配部201からの出力信号aを単位帯域幅BW/4の3倍である3BW/4だけずらす為のローカル信号を出力する発振器である。

各系列の周波数変換部404-2～404-4は、同相分配器201からの出力信号aに局部発振器(7)401又は局部発振器(8)402又は局部発振器(9)403からのローカル信号を乗算して周波数帯域を各々BW/4, BW/2, 3・BW/4だけずらした信号に周波数変換して出力するものである。

【0032】

次に、本発明の第1のO F D M受信機の動作について、図1、図3を使って説明する。図3は、本発明のO F D M受信機における各部からの出力信号の周波数スペクトルを示す説明図である。

本発明の第1のO F D M受信機の動作は、高周波のR F信号がアンテナ100より入力され、周波数変換部102で局部発振器(1)101からのローカル周波数信号と乗算されて中間周波である第1のI F周波数帯 f_1 に変換され、A G C部103で一定電力レベルになるように増幅或いは減衰され、同相分配器201で4つに同相分配して信号 a_1 ~ a_4 が各系列に出力される。

この時、同相分配器201から出力される信号 a の周波数スペクトルを図3(a)に示す。

【0033】

そして、第1の系列では、分配器出力信号 a_1 がそのままB P F 1(202)に入力される。

一方、第2の系列では、分配器出力信号 a_2 が、周波数変換部404-2で局部発振器(7)401からのローカル周波数信号と乗算されて、図3(b)に示すよう $\text{BW}/4$ だけずらした信号 g に周波数変換されて出力される。

同様に第3の系列では、分配器出力信号 a_3 が、周波数変換部404-3で局部発振器(8)402からのローカル周波数信号と乗算されて、図3(c)に示すよう $\text{BW}/2$ だけずらした信号 h に周波数変換されて出力され、第4の系列では、分配器出力信号 a_4 が、周波数変換部404-4で局部発振器(9)403からのローカル周波数信号と乗算されて、図3(d)に示すよう $3 \cdot \text{BW}/4$ だけずらした信号 i に周波数変換されて出力されることになる。

【0034】

そして、各系列において、同相分配器出力信号 a_1 又は周波数変換された信号 g 、 h 、 i が、B P F(1)202-1~202-4で、中心周波数 f_a 、帯域幅 $\text{BW}/4$ でフィルタリングされて出力され、図3(e)に示す帯域幅の信号 j が出力されることになる。これが、請求項で説明した周波数変換された各信号が共通に有している周波数帯域に相当している。

【0035】

ここで、BPF(1)202-1～202-4でフィルタリングされた信号は、全て中心周波数 f_a 、帯域幅 $BW/4$ の信号ではあるが、その前段の周波数変換部 404 で $BW/4$ ずつシフトされていた信号であるから、実は、同相分配器出力信号 a を 4 つに帯域分割した各周波数位置の信号であることが図 3 の網掛け部分から解る。

【0036】

そして、各系列では、各 BPF からの出力信号 j が、各周波数変換部 105 で局部発振器(3)206 からのローカル周波数信号と乗算されて周波数を下げた第 2 の IF 周波数帯 f_2 に変換され、各 OFDM 複調部 106 に出力されて、各 OFDM 複調部 106 で直交検波後復調され、P/S 部 210 で並列一直列変換されて、復調データとして出力されるようになっている。

【0037】

次に、本発明の実施の形態に係る OFDM 受信機の別の構成例（第 2 の構成例）について図 4 を使って説明する。図 4 は、本発明に係る OFDM 受信機の第 2 の構成例を示す構成ブロック図である。尚、図 4 では、4 つの並列処理に帯域分割した場合の構成例を示している。また、図 1 と同様の構成をとる部分については同一の符号を付して説明する。

本実施の形態に係る OFDM 受信機の第 2 の構成例（以降、第 2 の OFDM 受信機と呼ぶ）は、第 1 の OFDM 受信機と同様の構成である、アンテナ 100 と、AGC 部 103 と、同相分配器 201 と、局部発振器(3)206 と、各系列における周波数変換部 105 と、OFDM 複調部 106 と、P/S 部 210 とに加えて、本発明の特徴部分である局部発振器(10)501、局部発振器(11)502、局部発振器(12)503、局部発振器(13)504 と、各系列における周波数変換部 404-1～404-4 と、BPF(1)202-1～202-4 とから構成されている。

【0038】

ここで、第 1 の OFDM 受信機では局部発振器(1)101 及び周波数変換部 102 の動作によって、一旦第 1 の IF 周波数帯に周波数変換してから、局部発振器(7)401、局部発振器(8)402、局部発振器(9)403 及び各系列の周波数変換部 404-1～404-3 の動作によって周波数帯をずらしたが、図 4 に示す第

2のO F D M受信機では、局部発振器(10)501～局部発振器(13)504及び各系列の周波数変換部404-1～404-4の動作で、第1のI F周波数帯に周波数変換しながら更に周波数帯をずらすように構成している点が、第1のO F D M受信機と異なる点である。

【0039】

よって、図3に示した第1の系列の局部発振器(10)501は、図1に示した第1のO F D M受信機の局部発振器(1)101と同様の発振周波数であると考えても良い。

【0040】

本発明の第2のO F D M受信機の動作は、高周波のR F信号がアンテナ100より入力され、A G C部103で一定電力レベルになるように増幅或いは減衰され、同相分配器201で4つに同相分配して信号a1'～a4'が各系列に出力される。

そして、第1の系列では、分配器出力信号a1'が周波数変換部404-1で局部発振器(10)501からのローカル周波数信号と乗算されて、中間周波である第1のI F周波数帯f1に変換されて、信号fが出力される。

一方、第2の系列では、分配器出力信号a2'が、周波数変換部404-2で局部発振器(11)502からのローカル周波数信号と乗算されて、中間周波である第1のI F周波数帯f1に変換され更にB W/4だけずらした信号gに周波数変換されて出力される。

同様に第3の系列では、分配器出力信号a3'が、周波数変換部404-3で局部発振器(12)503からのローカル周波数信号と乗算されて、中間周波である第1のI F周波数帯f1に変換され更にB W/2だけずらした信号hに周波数変換されて出力され、第4の系列では、周波数変換部404-4で分配器出力信号a4'が、局部発振器(13)504からのローカル周波数信号と乗算されて、中間周波である第1のI F周波数帯f1に変換され更に3 B W/4だけずらした信号iに周波数変換されて出力されることになる。

【0041】

そして、各系列において、周波数変換された信号f, g, h, iが、B P F(1

) 202-1～202-4で、中心周波数 f_a 、帯域幅 $BW/4$ でフィルタリングされて出力され、第1のO F DM受信機と同様に図3 (e) に示す帯域幅の信号 j が出力されることになる。

以降の動作は、第1のO F DM受信機と同様である。

【0042】

次に、上記第2のO F DM受信機を応用した別の構成例（第3の構成例）について図5を使って説明する。図5は、本発明に係るO F DM受信機の第3の構成例を示す構成ブロック図である。尚、図5では、4つの並列処理に帯域分割した場合の構成例を示している。また、図4と同様の構成をとる部分については同一の符号を付して説明する。

本実施の形態に係るO F DM受信機の第3の構成例（以降、第3のO F DM受信機と呼ぶ）は、第2のO F DM受信機と同様の構成である、アンテナ100と、A G C部103と、同相分配器201と、P/S部210と、各系列における局部発振器(10)501、局部発振器(11)502、局部発振器(12)503、局部発振器(13)504と、周波数変換部404-1～404-4と、B P F(1)202-1～202-4と、O F DM復調部106' とから構成されている。

【0043】

ここで、図4に示した第2のO F DM受信機では、各系列においてB P F(1)202で帯域制限した後に、O F DM復調部106内で高速に行われるA/D変換に対応するために、局部発振器(3)206及び周波数変換部105の動作によって、周波数を下げた第2のI F周波数帯に周波数変換したが、図5に示す第3のO F DM受信機では、第2のI F周波数帯に周波数を下げるのことなく第1のI F周波数帯のままO F DM復調部106'に入力している。

【0044】

よって、第3のO F DM受信機のO F DM復調部106'では、構成としては、図2に示した構成であるが、但し、A/D変換器301におけるデジタル変換の仕様として、第2のO F DM受信機で用いていた第2のI F周波数帯の為のサンプリングクロックよりも低い周波数で、第1のI F周波数帯に合わせたサンプリングクロックで動作を行う、いわゆるアンダーサンプリング動作を行うことに

よって第1のI F周波数帯のままの入力I F信号を直接ベースバンドのデジタル信号に変換する。

この低い周波数によるアンダーサンプリング動作の結果、周波数軸上で0 H z近傍に周波数変換されたデジタル信号が出力されることになり、後続のデジタル直交復調器302には、周波数軸上で0 H z近傍に周波数変換された目的信号が入力されてデジタル直交検波され、I, Qそれぞれのベースバンド信号に変換されることになる。

【0045】

尚、図5に示した構成は、図4に示した第2のO F DM受信機において、第2のI F周波数帯に変換するための局部発振器(3)206及び周波数変換部105を削除した構成であるが、図1に示した第1のO F DM受信機においても同様の構成が考えられる。

【0046】

本発明の第3のO F DM受信機の動作は、高周波のR F信号がアンテナ100より入力され、A G C部103で一定電力レベルになるように増幅或いは減衰され、同相分配器201で4つに同相分配して信号a1' ~a4' が各系列に出力される。

そして、第1の系列では、分配器出力信号a1' が周波数変換部404-1で局部発振器(10)501からのローカル周波数信号と乗算されて、中間周波である第1のI F周波数帯f1に変換されて、信号fが出力される。

一方、第2の系列では、分配器出力信号a2' が、周波数変換部404-2で局部発振器(11)502からのローカル周波数信号と乗算されて、中間周波である第1のI F周波数帯f1に変換され更にB W/4だけずらした信号gに周波数変換されて出力される。

同様に第3の系列では、分配器出力信号a3' が、周波数変換部404-3で局部発振器(12)503からのローカル周波数信号と乗算されて、中間周波である第1のI F周波数帯f1に変換され更にB W/2だけずらした信号hに周波数変換されて出力され、第4の系列では、周波数変換部404-4で分配器出力信号a4' が、局部発振器(13)504からのローカル周波数信号と乗算されて、中間周波であ

る第1のI F周波数帯 f_1 に変換され更に $3BW/4$ だけずらした信号*i*に周波数変換されて出力されることになる。

【0047】

そして、各系列において、周波数変換された信号*f, g, h, i*が、BPF(1)202-1～202-4で、中心周波数 f_a 、帯域幅 $BW/4$ でフィルタリングされて出力され、第1のO FDM受信機と同様に図3(e)に示すような帯域幅の信号*j*が抽出されて出力され、各O FDM復調部106'に入力されることになる。

【0048】

そして、各O FDM復調部106'内では、A/D変換器301'で、入力された信号のI F周波数よりも低い周波数でアンダーサンプリングされて、周波数軸上で0 Hz近傍に周波数変換されたデジタル信号が出力され、デジタル直交復調器302でデジタル直交検波されてI, Qそれぞれのベースバンド信号に変換され、その後S/P部303, S/P部304でI, Qそれぞれが直列一並列変換され、DFT部305, DFT部306でそれぞれDFT変換され、各復号回路307にてI, Q信号が復号され、最後にP/S部210で並列一直列変換されて復調データが出力されるようになっている。

【0049】

本発明の実施の形態に係るO FDM受信復調方法及びO FDM受信機によれば、分配部で受信信号を帯域分割数だけ同相分配し、分配された各信号に対して、帯域分割数に応じた帯域幅だけ段階的にずらしておいてから、中心周波数及び帯域幅が同一である1種類の帯域通過フィルタでフィルタリングすることによって帯域分割を実現し、各信号をO FDM復調するので、帯域分割を実現するための帯域通過フィルタを同一特性の1種類で構成でき、帯域通過フィルタの開発費を軽減して経済的に構成できる効果がある。

【0050】

本発明の実施の形態に係る第1のF DM受信機によれば、同相分配器201で受信信号を帯域分割数だけ同相分配し、分配された各信号に対して、局部発振器(7)401～局部発振器(9)403及び周波数変換部404-2～-4の動作によって

、帯域分割数に応じた帯域幅だけ段階的にずらしておいてから、中心周波数及び帯域幅が同一である（同一特性の）1種類の帯域通過フィルタ（BPF(1)202）でフィルタリングすることによって帯域分割を実現し、各信号をOFDM復調部106でOFDM復調するので、受信信号を帯域分割数に応じた帯域幅だけずらす周波数変換によって、1種類の帯域通過フィルタによるフィルタリングで実現でき、特性の異なる帯域通過フィルタを帯域分割数分開発する必要がなく開発コストの軽減ができる、経済的に構成できる効果がある。

【0051】

本発明の実施の形態に係る第2のFDM受信機によれば、同相分配器201で受信信号を帯域分割数だけ同相分配し、分配された各信号に対して、局部発振器局部発振器(10)501～局部発振器(13)504及び周波数変換部404-1～-4の動作によって、第1のIF周波数帯に落としながら、帯域分割数に応じた帯域幅だけ段階的にずらしておいてから、中心周波数及び帯域幅が同一である（同一特性の）1種類の帯域通過フィルタ（BPF(1)202）でフィルタリングすることによって帯域分割を実現し、各信号をOFDM復調部106でOFDM復調するので、受信信号を帯域分割数に応じた帯域幅だけずらす周波数変換によって、1種類の帯域通過フィルタによるフィルタリングで実現でき、特性の異なる帯域通過フィルタを帯域分割数分開発する必要がなく開発コストの軽減ができる、経済的に構成できる効果がある。

【0052】

また、第1のOFDM受信機及び第2のOFDM受信機によれば、局部発振器(7)401～403又は局部発振器(10)501～503、及び周波数変換部404の動作によって分配された各信号を全帯域幅を帯域分割数で割った単位帯域幅ずつ段階的にずらすように周波数変換を行って、同一特性のBPF(1)202で帯域通過させる事で、帯域通過後の信号を同一の周波数帯の信号にするので、第2のIF用の局部発振器（局部発振器(3)206）を各系列で共通化することができ、ハード規模を削減できる効果がある。

【0053】

また、BPF(1)202の種類を1種類に絞った事により、BPFの特性ばら

つきが減り、直交性に敏感なO F DM波の受信に優位に働く構成となる。

【0054】

また、本発明の実施の形態に係る第3のF DM受信機によれば、局部発振器(10)501～局部発振器(13)504及び周波数変換部404の動作によって、第1のI F周波数帯への変換及び帯域分割の為の周波数変換を行い、B P F(1)202で帯域制限した後、そのまま第2のI F周波数帯信号に下げることなくO F DM復調部106に入力し、A/D変換器301でアンダーサンプリング技術を利用する事で、帯域通過フィルタ(B P F(1)202)の開発が1種類で済むだけでなく、O F DM信号を受信して復調する受信機における無線部の回路規模を大幅に軽減でき、小型化、コスト削減を図ることができる効果がある。

【0055】

【発明の効果】

本発明によれば、受信したR F信号を帯域分割数に同相分配し、受信したR F信号の全帯域幅を帯域分割数で割った帯域幅を単位帯域幅とし、単位帯域幅の整数倍だけ段階的にずらすように分配された各信号に対して周波数変換し、周波数変換された各信号を同一特性のフィルタリングで帯域通過させて帯域分割を行い、帯域通過された信号をO F DM復調する帯域分割復調方法としているので、帯域分割による並列処理のための帯域通過フィルタの特性を同一にすることで、帯域通過フィルタの開発費を軽減して経済的な構成で実現できる効果がある。

【0056】

本発明によれば、分配部がR F信号を受信して帯域分割数に同相分配し、周波数変換部が受信したR F信号の全帯域幅を帯域分割数で割った帯域幅を単位帯域幅とし、単位帯域幅の整数倍だけ段階的にずらすように分配された各信号に対して周波数変換し、バンドパスフィルタ部が周波数変換された各信号を同一特性で帯域通過させ、O F DM復調部が帯域通過された信号をO F DM復調し、合成部がO F DM復調部からの出力を合成して復調データを出力するO F DM受信機としているので、帯域分割による並列処理を実現するための帯域通過フィルタの特性を同一にすることで、帯域通過フィルタの開発費を軽減して経済的な構成を実現できる効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明に係るO F D M受信機の第1の構成例を示す構成ブロック図である。

【図2】

本発明のO F D M受信機のO F D M復調部の内部構成例を示すブロック図である。

【図3】

本発明のO F D M受信機における各部からの出力信号の周波数スペクトルを示す説明図である。

【図4】

本発明に係るO F D M受信機の第2の構成例を示す構成ブロック図である。

【図5】

発明に係るO F D M受信機の第3の構成例を示す構成ブロック図である。

【図6】

一般的なO F D M受信機の理論的構成例を示すブロック図である。

【図7】

従来のO F D M受信機の実現レベルでの構成例を示すブロック図である。

【図8】

従来のO F D M受信機における各部からの出力信号の周波数スペクトルを示す説明図である。

【符号の説明】

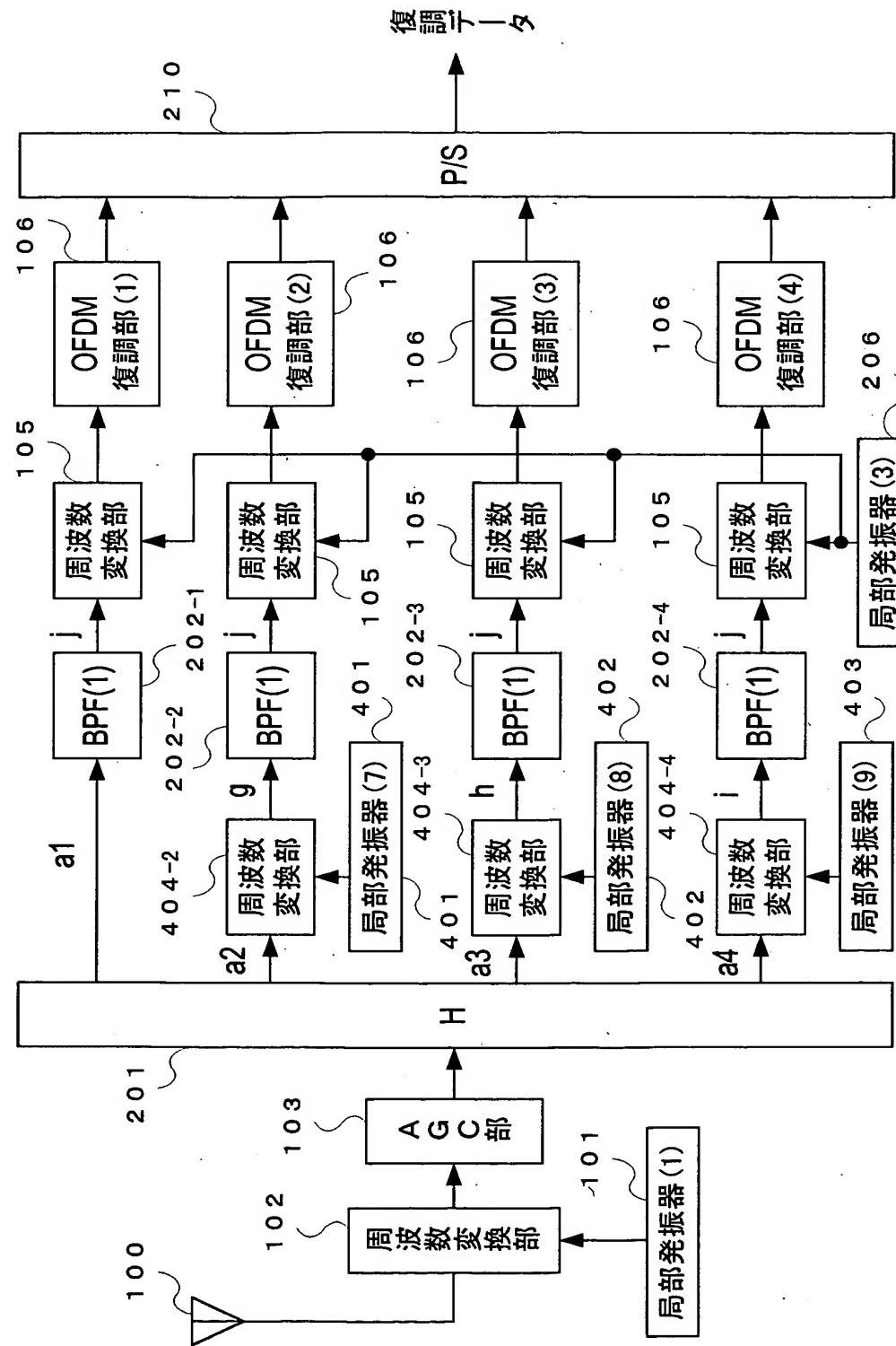
1 0 0 …アンテナ、 1 0 1, 1 0 4, …局部発振器、 1 0 3 …A G C部、
1 0 5 …周波数変換部、 1 0 6, 1 0 6' …O F D M復調部、 1 0 7 …P
／S変換器、 2 0 1 …同相分配器、 2 0 2 …B P F (1)、 2 0 3 …B P F (2)、
2 0 4 …B P F (3)、 2 0 5 …B P F (4)、 2 0 6 …局部発振器(3)、
2 0 7 …局部発振器(4)、 2 0 8 …局部発振器(5)、 2 0 9 …局部発振器(6)
)、 2 1 0 …P／S部、 3 0 1 …A／D変換器、 3 0 2 …デジタル直交復
調器、 3 0 3, 3 0 4 …S／P部、 3 0 5, 3 0 6 …D F T部、 3 0 7 …
復号回路、 4 0 1 …局部発振器(7)、 4 0 2 …局部発振器(8)、 4 0 3 …局

部発振器(9)、 404…周波数変換部、 501…局部発振器(10)、 502
…局部発振器(11)、 503…局部発振器(12)、 504…局部発振器(13)

【書類名】

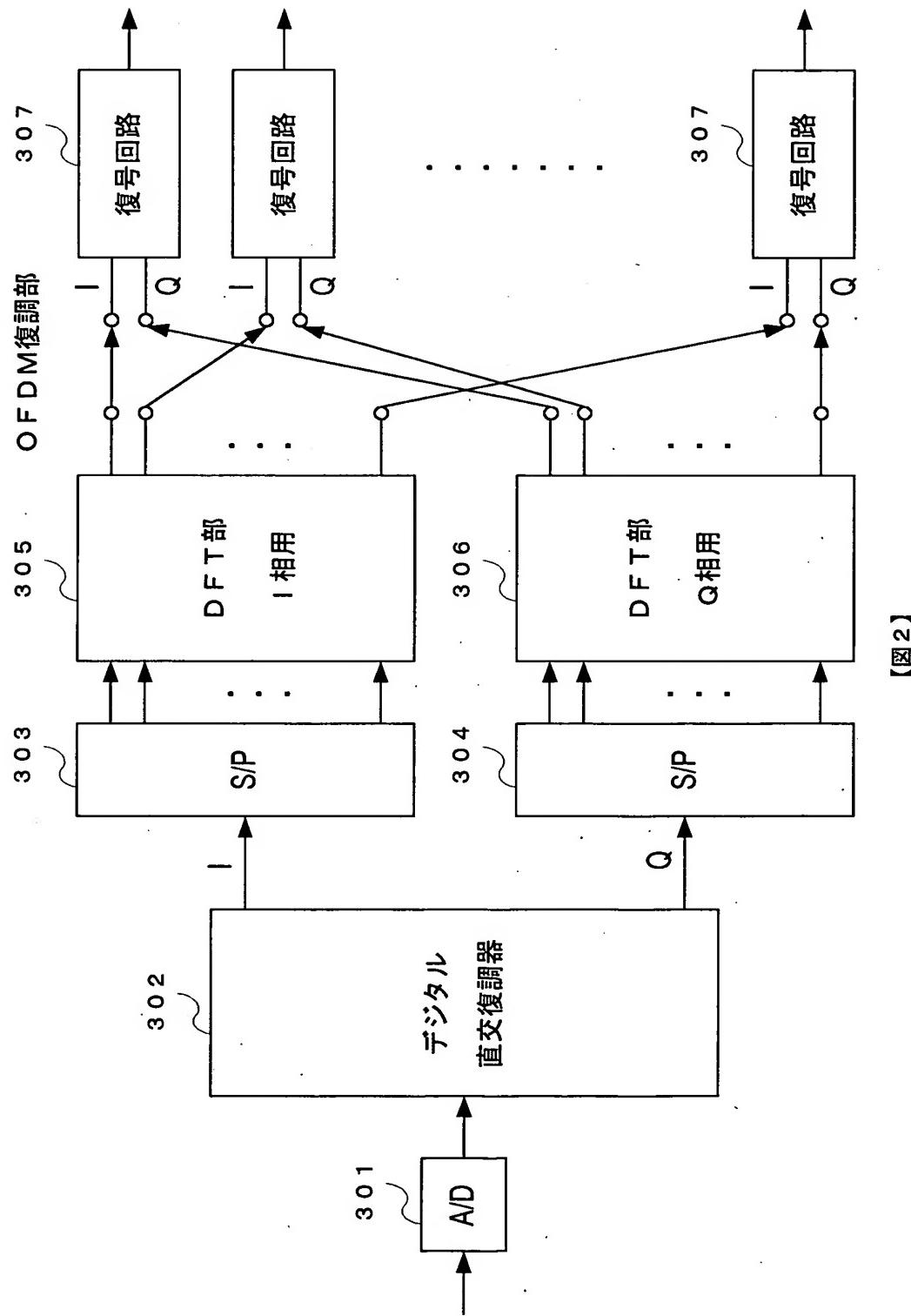
図面

【図1】



【図1】

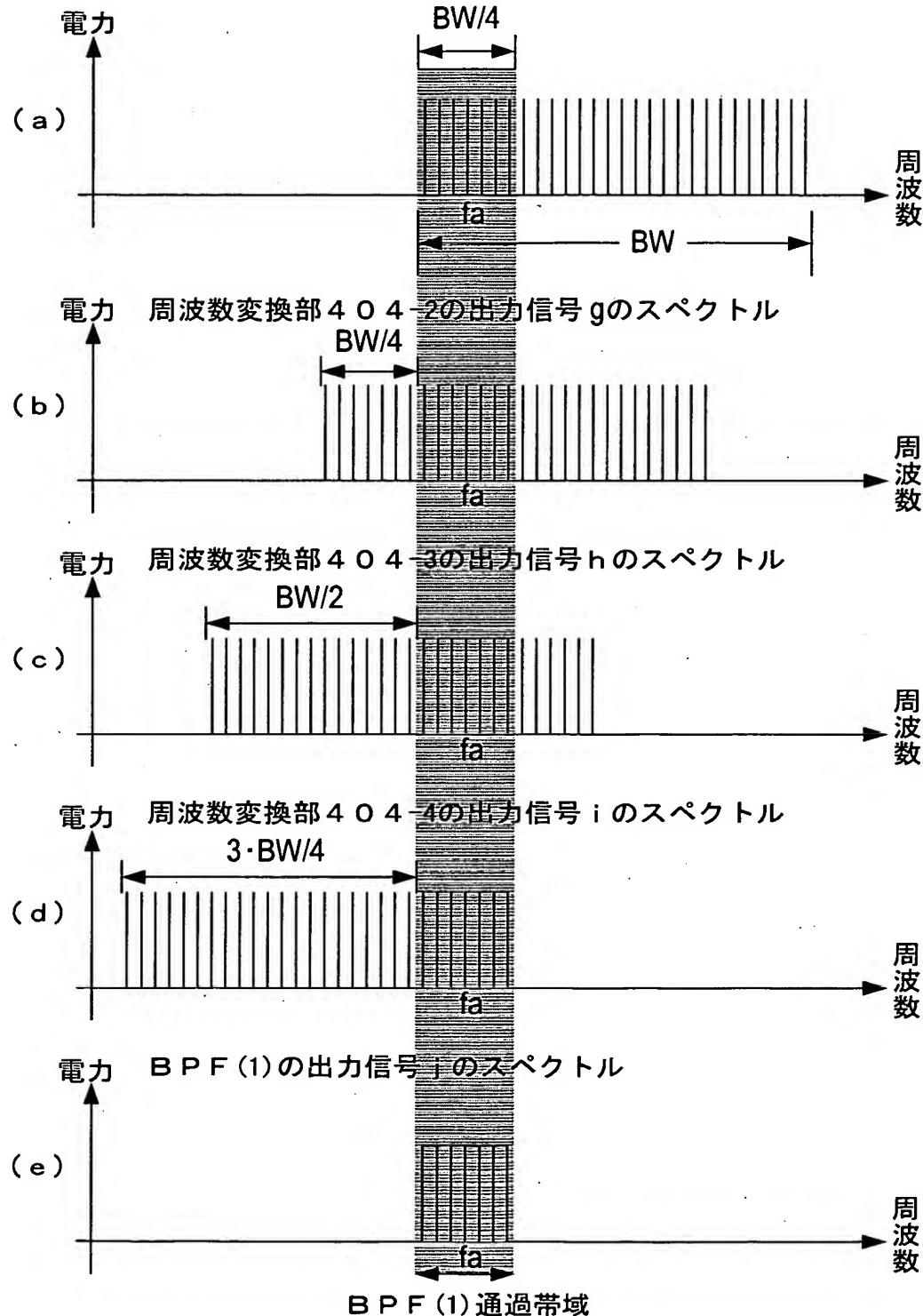
【図2】



【図2】

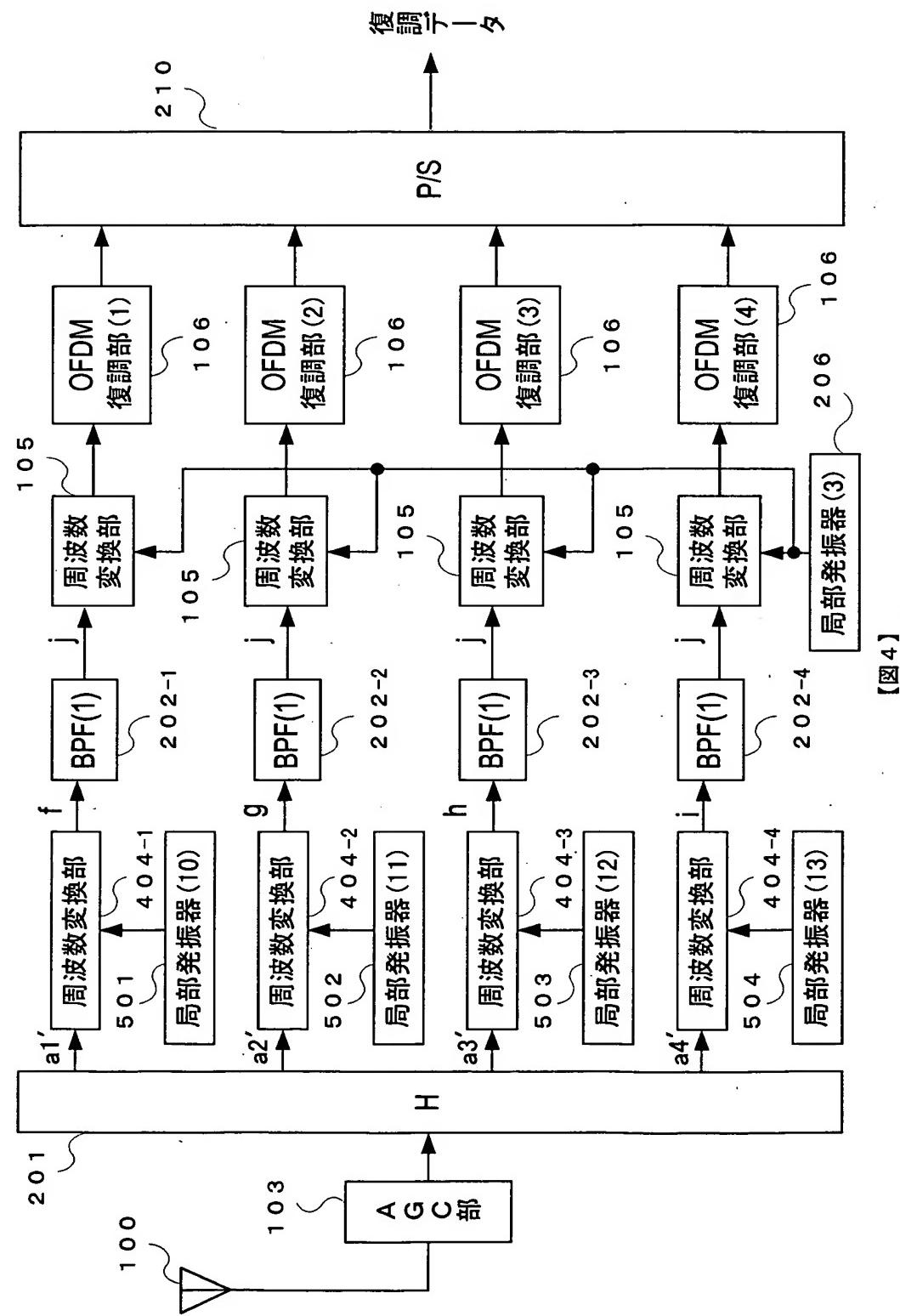
【図3】

同期分配器の出力信号aのスペクトル



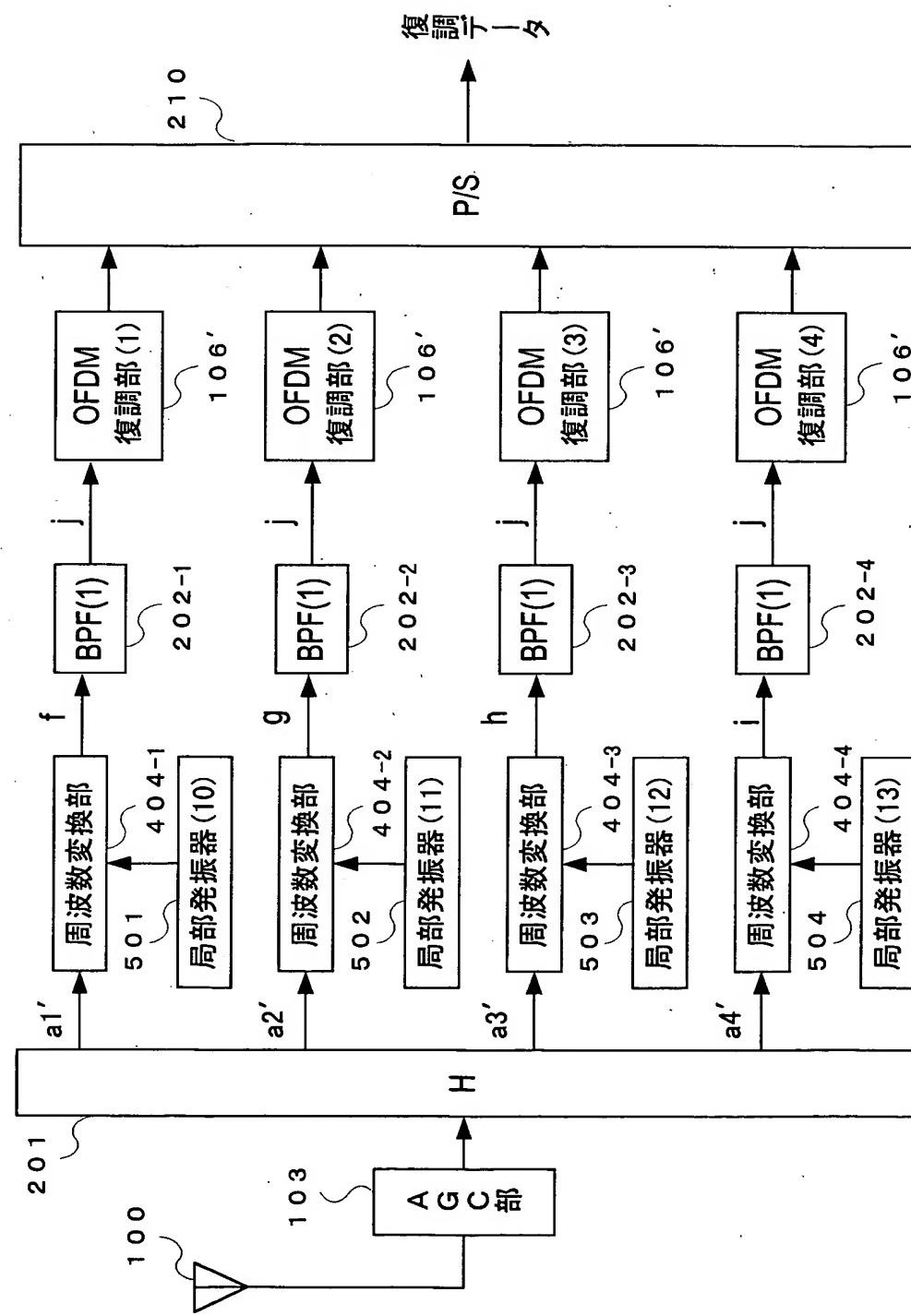
【図3】

【図4】



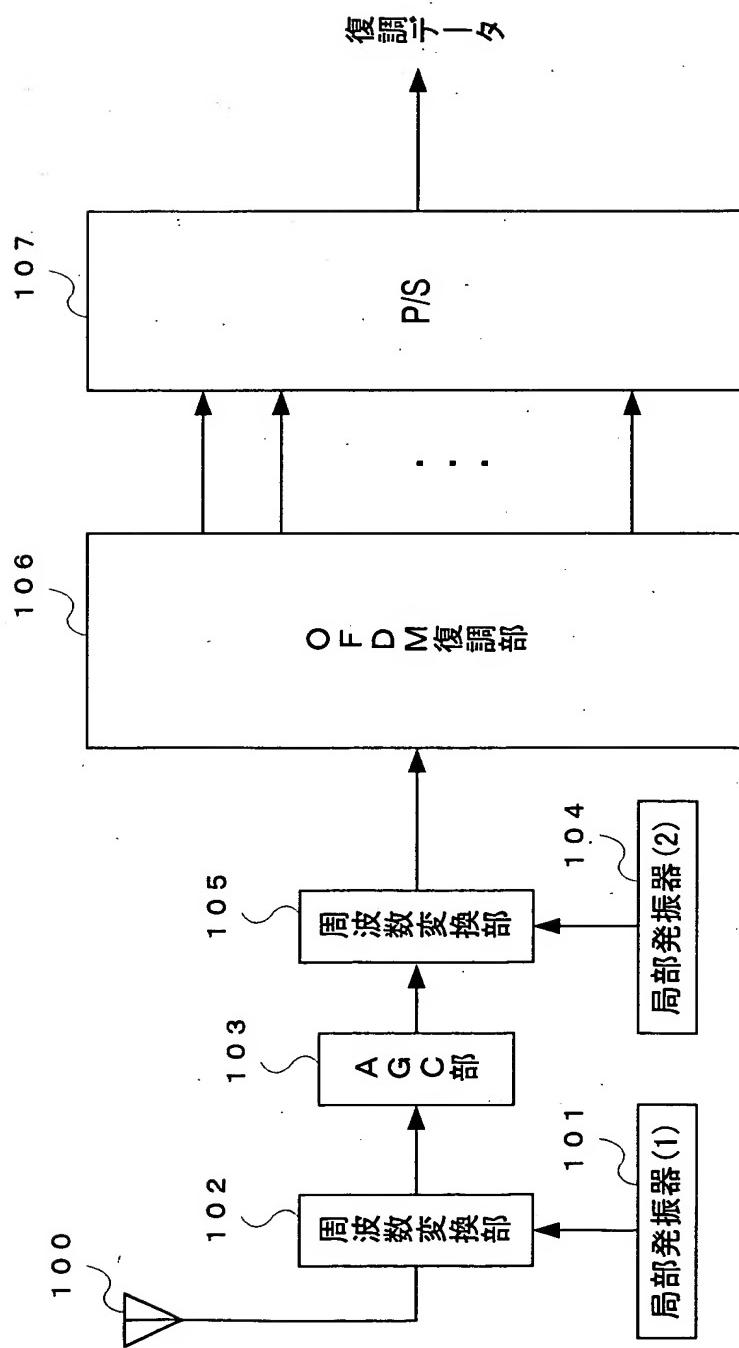
【図4】

【図5】



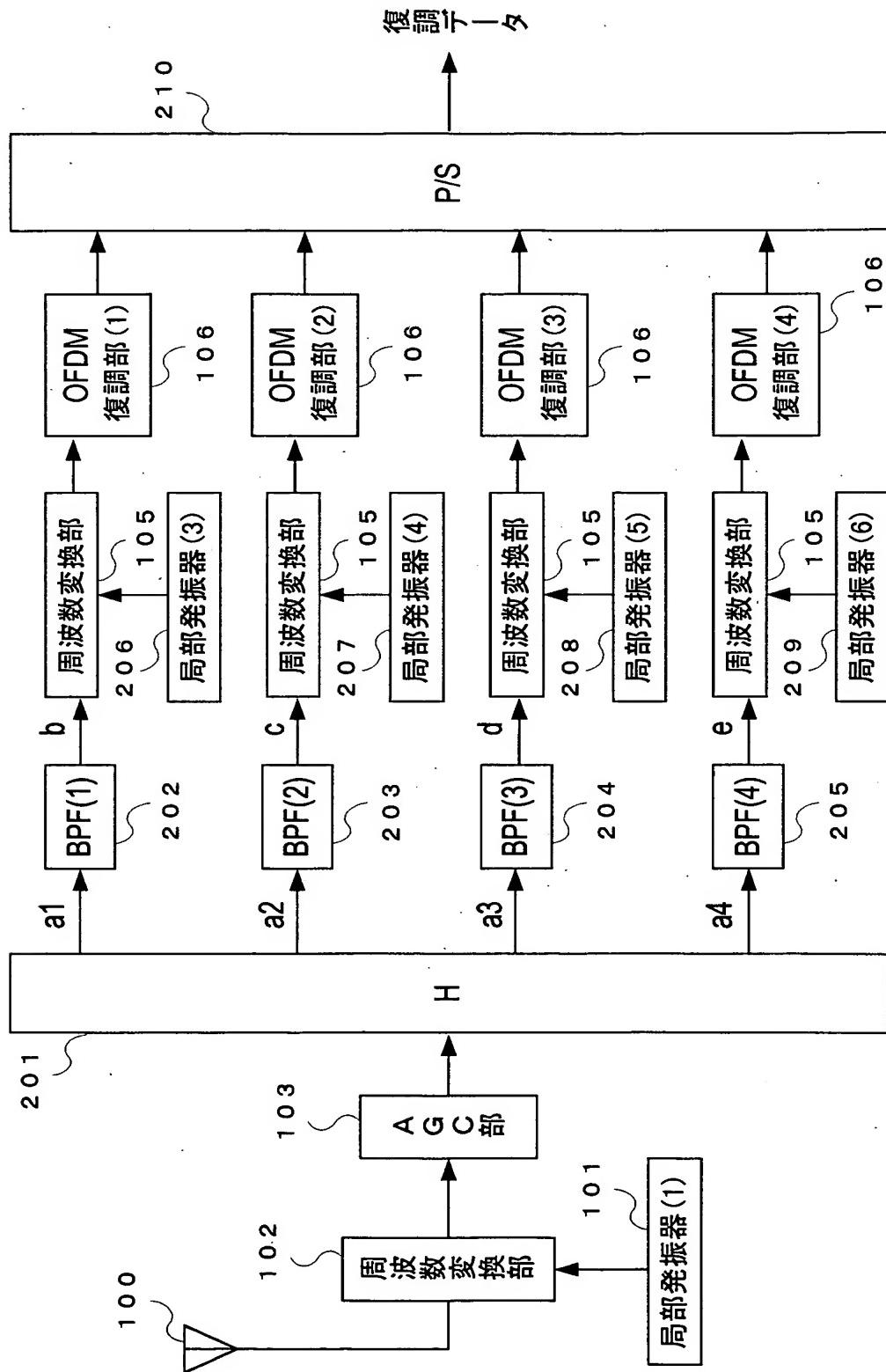
【図5】

【図6】



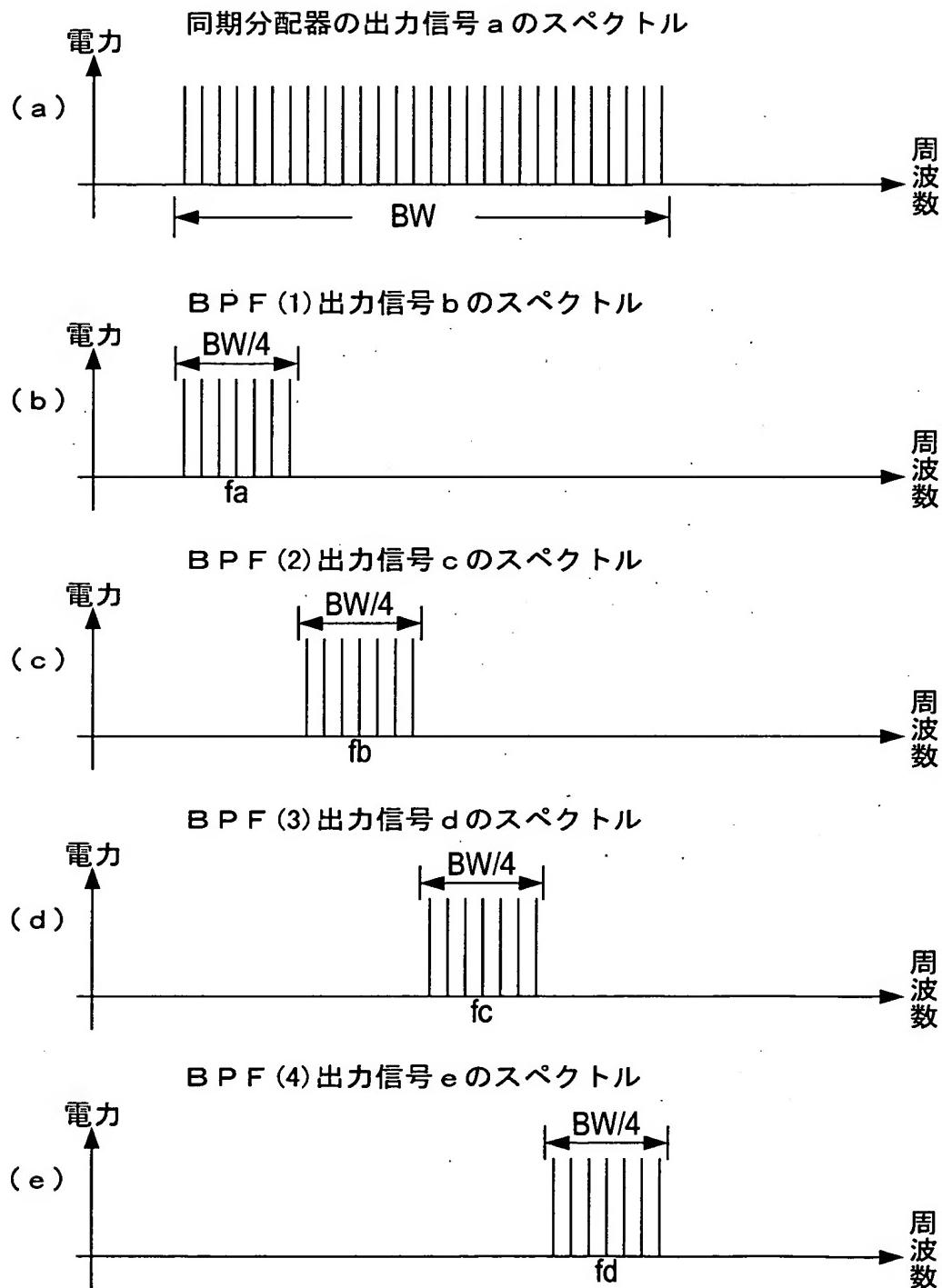
【図6】

【図7】



【図7】

【図8】



【図8】

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 従来のO F DM受信機は、中心周波数が各々異なる帯域通過フィルタを帯域分割数分だけ開発しなければならず、不経済であるという問題点があったが、本発明は、帯域通過フィルタの特性を同一にすることで、開発費を軽減して経済的に構成できる帯域分割復調方法及びO F DM受信機を提供する。

【解決手段】 同相分配器201でR F信号を帯域分割数に同相分配し、局部発振器401～403及び周波数変換部404で、受信したR F信号の全帯域幅を帯域分割数で割った帯域幅を単位帯域幅とし、単位帯域幅の整数倍だけ段階的にずらすように分配された各信号に対して周波数変換を行い、B P F(1)202で周波数変換された各信号を同一特性で帯域通過させてから、O F DM復調部106でO F DM復調する帯域分割復調方法及びO F DM受信機である。

【選択図】 図3

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2001-087278
受付番号	50100426156
書類名	特許願
担当官	第八担当上席 0097
作成日	平成13年 3月28日

<認定情報・付加情報>

【提出日】 平成13年 3月26日

次頁無

出願人履歴情報

識別番号 [000001122]

1. 変更年月日 2001年 1月11日

[変更理由] 名称変更

住 所 東京都中野区東中野三丁目14番20号
氏 名 株式会社日立国際電気